

はな み . .
「花も実もなるふくしまの協働」

... よりよい地域とするため、市民と行政が協力して取り組むときの「勘どころ」 ...



平成 24 年 3 月 30 日

福 島 市

福島市は、「市民との協働」をまちづくりの基本的な考えに位置づけ、「新・福島市協働のまちづくり推進指針（平成22年6月策定、以下「新指針」という。）を策定し、協働の定義、目的、ルールなどを定めました。

■「協働」ってなに？にお答えします。

『まず、「協働」ってなに？』

『新指針を読んだけど、難しい…』

『実際、どんなことが「協働」なの？』

こんな疑問にお答えするため、この「^{はな}も^みもなるふくしまの協働」をつくりました。

今回紹介する2つのとりくみは、福島市が考える「協働」のエッセンスを豊富に含んでおり、「ココに“フオーカス！”」というかたちで、それぞれのとりくみにおける「協働」をわかりやすく紹介しました。

この冊子を片手に「新指針」を読んでいただければ、「協働」がより身近に感じられると思います。

■理念や考え方だけでなく、実践することを目標に。

『こんな事例があるのか』

『自分たちの地域でもやれるかな』

そう思っただけのよう、市民の方に編集委員をお願いし、市民目線で2つの事例について取材し、「協働」のエッセンスとなるポイントを抽出し、まとめていただきました。

「^{はな}も^みもなるふくしまの協働」を読んでいただくことで、皆さんが「協働」を知り、実践するきっかけとなることを目指しています。

■この「^{はな}も^みもなるふくしまの協働」は、市民と行政が一緒につくりました。

『役所のつくる文章って難しいし、結局よくわからない』

『市民の目線と違う…』

こうしたご意見をもとに、今回は、様々な方面で活動されている6名の市民の方に編集委員として参加していただき、市職員も一緒に、現場取材やインタビュー、編集などを行い作成しました。

市民編集委員／ 渡邊 徳（前 清水地区町内会連合会長）

中村 紘夫（花もみ見廻り隊隊員）

高野 スミ子（飯野つるし雛まつり実行委員会副委員長）

遠藤 喜恵（NPO 法人市民後見サポートの会理事長）

丹治 裕之（NPO 法人ふくしま飛行協会業務部課長）

鈴木 智也（福島大学経済経営学類まちづくりサークル代表）

アドバイザー／ 齋藤 美佐（ふくしま情報ステーション所長）

福島市／ 清野 一浩、二瓶 芳信、半澤 一隆、畠 真理乃

（順不同・敬称略。役職名は平成24年2月現在）

■編集委員の方に、^{はな み . .}「花も実もなるふくしまの協働」を通して市民・行政に
伝えたい想いを伺いました。

- 普段はそれぞれに活動している団体でも、共通する課題解決のためには、地域の問題・課題に関心を持ち、共通するテーマについて、それぞれが持つ資源（人材・能力・分野等）を持ち寄り、信頼関係を持って、自主的・主体的に取り組むことが必要である。
- 地域を良くするには、まず住民みずからが行動しなくてはならない。その土地に住む住民が、伝統と文化を継承し将来へつないでいくためには、住民・行政・団体が一緒に立ち向かう姿勢が大切。
- 相手の意見を聞き、そのうえで自分の意見を話し、お互いに納得のいくまで話し合いを繰り返すことが、協働や地域の活性化を目指すうえでは必要なこと。
- 行政（支所、学習センター等）と住民がほどよい距離感（つながり）を保つことが大切。
行政は、市民に身近な支所・出張所の重要性を感じて欲しい。
- 行政は、自分の担当や管轄に関わらず、地域とどのように関わっていけるかを考えて欲しい。
事例のように、部署間の横のつながりを持って欲しい。



「花も実もなるふくしまの協働」 土合館公園協働整備事業実行委員会のとりくみ



※タイトルについて…福島市のさまざまな魅力を表現する統一イメージ「花も実もある福島市」を引用し、協働により花が咲き、実がなることを願いタイトルとしました。

事例の概要

市によって整備されたが、管理が行き届かず荒れた状態となっていた土合館公園を何とかきれいにしたいという思いのもと、平成17年に地区住民で組織する12団体と福島市が「土合館公園協働整備事業実行委員会」を構成し、協働により清掃活動などをおこなっています。

公園内には約4,500株のアジサイが植栽されており、今ではアジサイの名所として市民に広く愛されています。



土合館公園内に咲く、見事なアジサイ

協働する機関・団体

土合館公園協働整備事業実行委員会

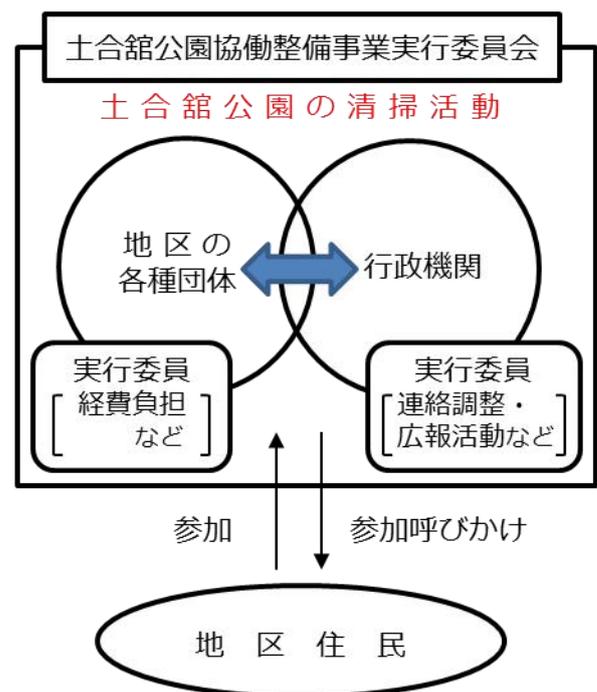
○地区住民で組織された各種団体(12団体)

- ・松川・町づくり委員会21
- ・松川町観光協会
- ・松川町商工会
- ・松川町町会長連合会
- ・松川地区老人クラブ連合会
- ・福島松川ライオンズクラブ
- ・原西会
- ・原西寿会
- ・ボーイスカウト福島市第5団
- ・ガールスカウト福島県第31団
- ・松川駅あじさい会
- ・館の会

○行政機関

- ・市公園緑地課
- ・市松川支所

【 協働の関係図 】



事例のきっかけ・背景

○荒れたままの公園を何とかしたい

JR松川駅の西約1.5kmの所にある土合館公園は、昭和41年に旧信夫郡松川町が福島市に合併した際、子どもからお年寄りまで楽しめる都市公園が松川地区にも欲しいという地区住民の願いから、昭和58年に市によって整備されました。

しかし、その後公園は手入れが行き届かないため徐々に樹木が繁茂し、安心して子どもを遊ばせることができないほど荒れた状態となってしまいました。公園の駐車場は暴走族のたまり場となり、さらには公園内でボヤ騒ぎが起きたことから、問題視されるようになりました。

一方、行政側でも、安全安心なまちづくりを推進するなかで、市の公園が荒れたままの状態となっていることに危機感をもっていました。

そこで、市松川支所の呼びかけにより、地区の12団体と市により「土合館公園協働整備事業実行委員会」が平成17年に組織されました。

ココに“フォーカス!” ①

地区住民の願いから整備された公園だったのに、荒れてしまっていて利用されなくなっていたことに問題意識があったんだね。

行政も、市の公園が荒れたままの状態であることに悩んでいたみたい。

行政が、地区内の団体に呼びかけたことによってつながり、協働できたんだね。共通のテーマをもっていそうな団体

や行政の部署に、声をかけてみる
ことが大事だね。



活動の内容(詳細)

○市の補助金に頼らず、自分たちができることを無理なく続ける

土合館公園協働整備事業実行委員会による清掃活動は、年に一度3月下旬から4月上旬頃に実施されています。※1 樹木の伐採やトイレの改修等は市公園緑地課が行い、地区の各団体では「自分たちができることを無理なくする」という視点で、園路の落ち葉ひろいや下草刈りなどととも、清掃活動の参加者におにぎりやトン汁をふるまっています。

この活動に市の補助金は入っておらず、食糧費や保険代、軍手、ゴミ袋等の費用は、すべて地区の各団体の負担金によってまかなわれています。

また、市公園緑地課は、実行委員としても清掃活動に参加し、間伐材を利用した樹名板やウッドチップ等を提供しています。市松川支所は、実行委員会事務局として会議や清掃活動を運営するほか、各団体への連絡調整や松川地区内へのチラシ配布、地区だよりへの情報掲載等を行っています。

※1 平成23年は、同年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原発事故の影響により見送りとなりました。

ココに“フォーカス!” ②

地区の各団体と行政が実行委員会を組織し、役割分担しながら一緒に活動に取り組んでいるんだね。

それぞれが持っている資源を出し合い、適切に役割分担しているところが協働なんだね。



○これまでの活動経過

	実施日	参加人数	主な作業内容	参加者へ配布	費用(円)
第1回	H17.4.3	120人	・園路整備 ・樹木の下草刈り、竹笹の伐採 ・公園内の清掃	お茶 おにぎり	111,755
第2回	H18.4.2	120人	・樹木の下草刈り ・公園内の清掃	お茶 おにぎり	73,316
第3回	H19.3.24	99人	・樹木の下草刈り ・公園内の清掃	お茶 おにぎり	123,870
第4回	H20.3.30	134人	・樹木の下草刈り ・公園内の清掃 ・遊歩道にウッドチップ敷設	お茶 おにぎり	86,226
第5回	H21.3.28	147人	・樹木の下草刈り ・公園内の清掃	お茶 おにぎり トン汁	105,540
第6回	H22.3.27	141人	・公園内の清掃 ・伐採された竹の処分 ・樹名板の作成、設置	お茶 おにぎり トン汁	126,363

<松川地区のデータ>

◇人口：14,553人(うち65歳以上3,615人) ◇世帯数：5,235世帯

◇高齢化率：24.8%(福島市23.4%)

※人口、世帯数は平成22年10月1日現在の住民基本台帳に基づく。

(「平成22年度福島市高齢者調査」より)

<松川地区について>

八丁目宿を構成していた3つの村(八丁目、鼓岡、天明根)が明治9年に合併し松川村となった。昭和11年11月に町制を施行し松川町となり、昭和30年3月隣接する金谷川、水原、下川崎の各村と合併、昭和41年6月に福島市と合併し現在に至る。

(「松川学習センター要覧」より)

<土合館公園について>

緑豊かな丘陵地を整備した公園で、自然林が多く残されている。園路には約4,500株のアジサイが植えられ、別名アジサイ公園ともいわれている。

◇所在地：福島市松川町字土合館7番外

◇面積：約5.5ヘクタール

(「ふくしま市の公園」より)



樹名板の作成



子どもたちも清掃に参加



園路の清掃作業

協働のキーパーソン

○土合館公園協働整備事業実行委員会

会長 丹野 義明さん

「平成12年に土合館公園の現状と問題点を検討し、次のような計画を立てたことが活動の原点です。」

1. アジサイの名所とするために

[アジサイの剪定、維持管理、多くの品種の植栽]
[ビューポイントづくり]

2. 開放性のある公園づくり

[樹木の管理、見透しの確保]

3. 水原川との接点を検討する

[水原川に架かる木橋の活用]

“造られた公園”から“みんなで創っていく公園”をめざし計画を実行していきます。」



会長 丹野義明さん



市松川支所 阿部猛志さん

○市松川支所 主事 阿部 猛志さん

「この事業の魅力は、地区住民が世代や男女の別をこえて一緒に作業をすること。もう一つは、地区住民と行政が無理なく同じ歩幅で作業をしていることです。私も、この事業が長く続くよう、無理せず最大限に関わりたいと思っています。」

ココに“フォーカス!” ③

自主的・主体的に活動に取り組もうとする人の存在が協働に結びついたんだね。

行政職員にも、市民の役割や特性を理解し、実践することが求められるね。



地域資源

○かつて、宿場町「八丁目宿」として栄えた市の南玄関口

○史跡や花の名所などの地域資源を有する

松川地区は市の南端に位置し、国道4号やJR東北本線、東北自動車道松川スマートインターチェンジなどがあることから、交通アクセスが良く、市の南玄関口となっています。

かつては、宿場町「八丁目宿」として栄え、旧奥州街道沿いには伊達氏の支城「八丁目城址」や明治18年につくられた石造りの「めがね橋」があります。水原川にかかる「木橋（土合前橋）」や隕石伝説のある「天明石」など、多くの地域資源を有しています。

毎年10月第2土日には、「松川提灯まつり」が旧街道とJR松川駅周辺の2箇所で開催され、地区への愛着を深める場のひとつとなっています。

土合館公園は、現在ではアジサイ公園として多くの観光客が訪れるようになり、毎年7月上旬には「松川町あじさい小路」が開催されています。また、近隣には絶滅危惧種のひとつクマガイソウの群生地があり、全国でも希少な自生植物として県内外から多くの山野草愛好家が訪れています。



アジサイ公園として多くの観光客が訪れている



めがね橋



松川提灯まつり

今後、そして将来 ～いまを見つめて、その先へ～

○土合館公園と旧奥州街道の回遊性をもたせ、町ににぎわいをつくる

会長の丹野さんは、「将来、旧奥州街道沿いにもアジサイを植えて“市の南玄関口”を花でかざり、土合館公園と八丁目城址やめがね橋をつなぐ散策路を整備し、にぎわいをとりもどした町を子どもたちに見てもらいたい」と考えています。かつて、小学生の頃よく八丁目城址で遊んだ丹野会長には、旧奥州街道の整備にかける強い思いがあります。

また、今後の協働整備事業についても、昼食づくりを防災訓練の一環に位置づけることで、災害時の炊き出し等に迅速な対応をとることができるのではないかと考えています。協働することによって、大きな可能性が生まれています。

ココに“フォーカス!” ④

地区の各団体が、自らの手で公園をきれいにしようと自律的に行動しているからこそ協働できているんだね。実行委員会の中でも、それぞれが互いに対等の関係であることを認め合い、協力して取り組んでいるところが協働なんだね。

担当職員がかわっても、しっかり業務をひきついでいることは、協働を継続するうえで重要なポイントだね。



協働から見えてきたこと

- ◎土合館公園がきれいになった！
- ◎住民と行政の距離が近くなった！
- ◎土合館公園に対する地区住民の愛着が深まった！

手入れが行き届かず荒れていた公園が、地区の各団体と行政が協働で作業をすることによりきれいになりました。地区住民にとっても、自ら清掃作業をすることで、達成感とともに地区への愛着が深まり、地区を知るきっかけにもなりました。

清掃作業をとおして住民と住民のつながりが生まれ、今後地区が一体となって活動する必要が生じたときには、このつながりが生きてくると思われます。

また、地区住民と行政がつながりを深めることは、今後住民と行政との連携が必要な場面においても活かされるのではないのでしょうか。

◎協働の先進事例となった！

◎担当職員がかわっても業務をしっかりと引き継いでいる！

行政側にとっても、今後さまざまな課題を解決するためには、地区住民との協働はますます重要となってきます。土合館公園協働整備事業は、年に一度の協働作業ですが、継続して活動することにより公園がきれいになり、地区住民のつながりが深まり、今では観光資源としても注目されるようになりました。

また、協働が継続されている要因のひとつには、支所の担当職員が異動しても、業務がしっかりと引き継がれていることがあげられます。

地区住民と行政が「程よい距離」を保ち、無理なく事業を継続している点は、今後協働を進めるうえでの大きなヒントになります。

どんな花が咲いたか

安心な公園
笑顔の住民

どんな実がなったか

先進的な事例
活動に関わった
人たち

編集後記

近隣関係が希薄化しているといわれるなか、先駆的な土合館公園協働整備事業をとおしてつちかった地域の絆は“アジサイ”という花に込められています。“アジサイ”は七変化の花ともいわれています。アジサイにあやかって地域社会を変化させることでしょう。（渡邊）

荒れた市の公園が地区住民の公園に対する愛情で整備され、見事に「いこいの場」としてよみがえった。市を動かした地区住民、地区住民の思いを受けとめた市とまさに協働のお手本。事務局を支所においていることが成功のカギかも知れない。（高野）

学生という立場で編集委員として参加し、協働としてそれぞれの立場で最大限に発揮できる活動を当事者からきくことができ、とても勉強になりました。今後も学生がこのような活動に加わってほしいと思います。（鈴木）

平成24年1月



(活動のあしあと)

- 平成23年6月22日 現地取材、第1回全体会
- 7月27日 実践者へ取材①
- 9月7日 第2回全体会
- 9月16日 実践者へ取材②
- 11月21日 第3回全体会

問合せ：松川支所
電話：024-567-2111

※ 平成23年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原発事故による放射能汚染により、同年3月26日に予定されていた清掃作業は見送りとなりました。平成24年1月現在、今年のコスモス清掃作業の実施に向けて検討を進めています。

事例のきっかけ・背景

○地区住民のアイデアと行政のサポート

きっかけは…

平成19年、将来の農業生産法人化をめざし設立された大波上組集落営農倶楽部では、共同草刈や農作業の受託、農業施設の共同利用などの活動をスタートさせていたところ、同年に市農政課から耕作放棄地解消のため景観作物を栽培してほしいとの依頼を受け、大波城趾東側にあった休耕地約45アールで栽培することを計画しました。

会員による話し合いの結果、景観に優れ、加工に適し、農閑期に作業ができる作物としてヒマワリを選びました。

ココに“フォーカス！”①

大波地区では、後継者不足や高齢化になやんでいたんだね。

行政も、耕作放棄地がふえていくことに危機感をもってみたい。

だから、同じテーマをもつ営農倶楽部と市農政課がつながることで協働できたんだね。まず、共通のテーマをもつ行政

の部署や団体に、声をかけてみる
ことが大事だね。



○ふえる耕作放棄地、農業の担い手不足

背景には…

大波地区は、販売農家に占める兼業農家の割合が高く、後継者不足や高齢化により耕作放棄地が増加傾向にあることから、地区住民はこれらの諸課題にどう対応したらよいか話し合いを続けていました。その結果、農業生産法人による共同経営を目的に掲げ、その第一歩として、地区内三つの集落（上部・水戸内・土屋場）の住民27名により「大波上組集落営農倶楽部」を設立しました。

一方、行政側でも販売農家数の減少※1や農業就労者の高齢化を深刻に受け止めていました。平成23年6月策定の市総合計画前期基本計画でも、農業の持続的発展に向けた農業の担い手の育成と農用地の確保を基本方針の一つとし、集落営農や農業生産法人等の育成・支援にとりくむ一方、耕作放棄地の解消に向け、市独自に「中山間地域等田園風景形成支援事業※2」を実施していました。

※1 市の販売農家数は、平成7年の6,878戸が平成17年には5,277戸と10年間で23.3%減少した。

※2 中山間地域等田園風景形成支援事業…中山間地等における農用地の保全や多面的機能の確保を図るため、耕作放棄地の復旧および景観作物等の栽培に対し、所要経費の補助を行う。

大波地区データ

- ◇人口：1,201人(うち65歳以上392人) ◇世帯数：460世帯 ◇面積：16.09平方キロメートル
- ◇高齢化率：32.6%(福島市23.4%) …市内で2番目に高い
- ◇販売農家世帯数：77世帯(うち専業23、兼業54) ◇経営耕地面積(販売農家)：6,070アール
- ◇一戸当たり平均耕地面積：78.8アール

※人口、世帯数は平成22年10月1日現在の住民基本台帳に基づく。

※販売農家世帯数、経営耕地面積(販売農家)、一戸当たり平均耕地面積は、平成22年2月1日現在のデータ

※販売農家…経営耕地面積が30アール以上または調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家

(「平成22年度福島市高齢者調査」「平成23年度福島市の農林業」より)

活動の内容(詳細)

○地区住民、各企業・団体、行政がつながりながら協働作業を展開

平成19年度からの3年間、ヒマワリ栽培は市中山間地域等田園風景形成支援事業補助金と会費によりまかなわれました。補助申請の書類作成などについては、市農政課のサポートを受けました。補助事業終了後は、ヒマワリ油を使った加工品の売上金や会員のボランティアにより、補助金に頼らない経営をおこなっています。

〈市中山間地域等田園風景形成支援事業補助の状況〉

H19年度 430,259円 (復旧経費、ヒマワリの種購入、播種および管理経費)

H20年度 454,656円 (復旧経費増加分、ヒマワリ種購入、播種および管理経費)

H21年度 278,289円 (ヒマワリの種購入、播種および管理経費)

合計 1,163,204円

国道115号から眺めの良い大波城趾東側の休耕地45アールを利用し、ヒマワリの種まきから草刈等の管理、収穫、種とりまですべて手作業でおこなっています。種まきと収穫作業は、大波地区の自治振興協議会や町会連合会のほか、地区住民や市農政課、JA新ふくしま、NPO法人シャロームと一緒にこなっています。

収穫したヒマワリの種は、郡山で搾油しヒマワリ油に加工します。当初はヒマワリ油として販売していましたが、高価で買い手が少なかったため、現在は少量で製品化できるドレッシングを内池醸造株式会社に依頼し製造しています。平成22年度には2,000本のドレッシングができあがり、JA女性部大波支部が運営する地元の産直所「かあちゃん市」やJA直売所、NPO法人シャローム「まちなか夢工房」にて販売されています。

また、ヒマワリ栽培には地区の女性が重要な役割を果たしています。JA女性部が中心となり、ドレッシングの味付けを担当したり、種まきや収穫作業時におにぎりやトン汁等をふるまうなど、活動を後押ししています。

(種まきから製品販売まで)

6月 播種作業 (おにぎり・トン汁等のふるまい)

8月 開花、ひまわり祭り

9月 収穫、種とり作業 (おにぎり・トン汁等のふるまい)

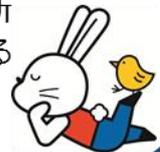
11~12月 搾油、ドレッシング加工

3~5月 ドレッシング完成、販売

ココに“フォーカス！”②

ヒマワリの種まきや収穫作業のほか、ドレッシング加工も含めた活動全般を、地区住民や各企業・団体、行政がつながりながら取り組んでいるね。

それぞれが違った特性をもっているからこそ、互いの長所を生かし、短所を補って協力できるところが協働だね。



種まき作業



収穫作業



種とり作業

協働のキーパーソン



- 大波上組集落営農倶楽部 代表 栗原正司さん
後継者育成と農業生産法人化を真剣にめざしています。
「市農政課が作業にきてくれてとても感謝している。営農倶楽部を農業生産法人化することには資金面などで不安はあるが、地区のみんなが協力的だから続けてこれた。これからもヒマワリの栽培をとおして地区の絆を深めていきたい。」



- 大波上組集落営農倶楽部 副代表 紺頼純子さん
アイデアと行動力が抜群で、女性の視点から倶楽部をひっぱっています。
「これからますます高齢化する地区にあって、農地・農業を守り、継続していくためには、農業を集約し組織力をもって効率よく行動することが必要だと思います。その意味からも、営農倶楽部の存在は大きいと思います。」



- 市農政課 課長補佐 大内松男さん
補助事業終了後も活動を見守り、種まきや収穫などにも参加しています。
「耕作放棄地解消の補助事業は3年間で終了しましたが、その後、ヒマワリ油のドレッシングという特産品づくりに発展するなど、営農倶楽部の皆さんのアイデアと行動力、そして自立性をもって活動されている点が大変すばらしいと思います。」



- 市大波出張所 主任 齋藤高志さん
地区内外からの問合せ対応、市関係課との連絡調整などを行っています。
「営農倶楽部から種まきや収穫のお知らせをいただいています。手伝ってほしいという話はなく、自分たちでしっかり運営していることがすばらしい。問合せへの対応など、出張所としてサポートしたいと思います。」

ココに“フォーカス！”③

問題意識をもって自主的に取り組もうとする人を見つけ出すことが協働には重要なだね。

行政にも、市民と協力して活動を実践する職員が存在が必要だね。



地域資源

○歴史や伝統文化のある郷土愛に満ちた風土

○住民と住民、住民と行政の“ほどよい距離感”

大波地区は、相馬市などへの交通の基幹となる国道115号が走り、山間に農地が広がる市の「東の玄関口」といえる位置にあります。農業が基幹産業で、米や桃、キュウリのほか、最近はゴーヤ栽培が盛んに行われています。

伊達藩の要所であった大波城跡は地区住民のよりどころであり、古い伝統（三匹獅子舞）や祭りなどが引き継がれ、郷土愛と良好なコミュニティ環境が醸成されています。

大波地区は、昭和30年に旧小国村から福島市に編入された地区ですが、市大波出張所は地区住民と市各部署との“つなぎ役”として良好な関係を築いています。



市指定無形民俗文化財の三匹獅子舞



大波城趾からみた美しい田園風景



大波夏祭りのようす

今後、そして将来
～いまを見つめて、その先へ～

○将来の農業生産法人化を目指す栗原会長の熱意が活動を支える

将来は、ヒマワリ以外の作物を栽培・加工し、大波ブランドを確立したいという思いがある一方、農業生産法人化について「まだまだ壁は多い」と栗原代表は話しています。その理由として、会員の高齢化が進むなか資金繰りが困難であることや、東京電力福島第一原発事故による放射能汚染の影響で、農産物や加工品が売れるのか不安であることなどをあげています。

農業生産法人化の実現には多くの課題がありますが、営農倶楽部の皆さんは積極的に活動を続けています。夢の実現のためには、地区住民や各企業・団体はもちろん、行政も含めた幅広い組織と協働することで、課題を解決していくことができると思います。

協働から見えてきたこと
～どんな花が咲き、どんな実になったのか～

- ◎自立・自律のきっかけがめばえた！
- ◎地区住民と行政の距離が近くなった！
- ◎住民と住民のつながりが強まった！
- ◎大波地区を多くの人に知ってもらえた！

営農倶楽部だけでは、資金調達や補助事業手続きなどの面から活動を継続することは難しかったことが、各企業・団体や行政と協働（補助金申請等へのアドバイス、資金助成、休耕地の整備、栽培作業、加工、製品開発、販売）することで継続性が高まりました。

また、住民と住民の新たなつながりが生まれたばかりでなく、協働によって、活動が地域プロモーションへと広がり、大波地区を広く多くの人に知ってもらうことができました。

その一方で、活動する際の連絡調整など苦勞することもあります。各企業・団体、行政との良好な関係を保つことが、協働の継続には不可欠です。

ココに“フォーカス！”④

営農倶楽部だけでは、ヒマワリ栽培を続けられなかったかもしれないね。地区住民や各企業・団体、行政がつながることで継続性が高まったし、一緒に活動することで住民と住民、住民と行政の距離が近くなったんだね。

行政も、苦勞していた耕作放棄地解消のモデル事例をつくることのできたし、何より地区住民との間に、信頼関係を築くことができたんだね。

それぞれが独立した存在であることを認め合い、互いに意見を尊重することが、協働するうえでは大切だね。



◎耕作放棄地解消の優良事例とすることができた！

◎行政が抱えている課題を解決することができた！

協働は、行政にもメリットをもたらしました。耕作放棄地の解消や集落営農の推進を重要な施策としてとりくんでいる市農政課にとっては、営農倶楽部と協働することにより、課題解決のひとつのモデルをつくることができました。各地で耕作放棄地の解消に苦労している中、このとりくみは予算をとまわずに継続されているうえ、美しいヒマワリの風景が新聞等で取り上げられ、新たな観光資源としても注目を浴びるなど、耕作放棄地解消の優良事例となりました。

また、行政がさまざまな施策にとりくむうえで、地区住民との連携は必要不可欠です。農業をとりまく情勢がめまぐるしく変化する今、営農倶楽部との間に築かれた関係は、今後さまざまな事業を実施するうえで大切な財産となります。

どんな花が咲いたか

美しい景観
地域ブランド

どんな実がなったか

地域のPR
世代を超えた結束力

編集後記

～取材の立場から見たもの～

大波地区の住民の間では、もともとコミュニケーションがしっかり取られているようで、日々の暮らしの中に「共助」の考え方が根付いていると感じました。

住民が主体となり、住民合意をもとに行政と手をつなぎながら地域の将来を模索していますが、協働が成り立つためには、各個人や団体が自立すること、そして行政は事業終了後も経過を見守っていくことが大事だと感じました。

昨年、大波地区でも放射線被害という未知の問題が降りかかってしまいましたが、きっと住民みんなが一致団結し、将来に向かって前進していくと信じています。

平成24年1月

中村・遠藤・丹治



(取材のあしあと)

平成23年6月22日	現地取材、第1回全体会
7月13日	実践者へ取材①
7月20日	実践者へ取材②
9月7日	第2回全体会
9月30日	実践者へ取材③
11月21日	第3回全体会

問合せ

福島市農政課 (電話 024-525-3726)
大波上組集落営農倶楽部
(電話 024-588-1218)

※ 平成23年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原発事故による放射能汚染により、種まきや収穫作業に子どもが参加できなくなったり、震災前に製造されたドレッシングの売上げ悪化などの影響がありました。平成24年1月現在、収穫したヒマワリの種をドレッシングに加工するかどうかは未定です。

はな み . . .
「花も実もなるふくしまの協働」

平成 24 年 3 月 30 日発行

発行 福島市政策推進部企画経営課
〒960-8601 福島市五老内町 3 番 1 号
Tel : 024-525-3708 Fax : 024-536-9828
